

#15
211
5/3/00
ATTN: BOX MISSING PARTS

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of

Hiroshi OMURA

Serial No.: 09/425,617

Filed: October 22, 1999

For: PORTABLE PRINTER AND CAMERA



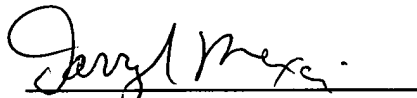
SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENTS

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

Submitted herewith are two (2) certified copies of the priority documents on which a claim to priority is made under 35 USC 119. The Office is respectfully requested to acknowledge receipt of said priority document(s).

Respectfully submitted,


Darryl Mexic
Registration No. 23,063

SUGHRUE, MION, ZINN, MACPEAK & SEAS
2100 Pennsylvania Avenue, N.W.
Washington, D.C. 20037-3202
Tel: (202) 293-7060
DM:tnj

Date: January 12, 2000

No: 10-300978 (Japanese)
11-292642 (Japanese)

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application



1 9 9 9 年 1 0 月 2 2 日

出 願 番 号
Application Number:

平成 1 0 年 特 許 願 第 3 0 0 9 7 8 号

出 願 人
Applicant (s):

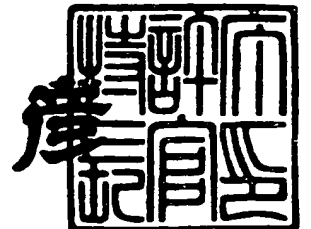
富士写真フイルム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1 9 9 9 年 1 0 月 2 2 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



【書類名】 特許願

【整理番号】 P981022A

【提出日】 平成10年10月22日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G03B 17/50

【発明の名称】 携帯型プリンタ

【請求項の数】 3

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県朝霞市泉水 3-13-45 富士写真フイルム株式会社内

【氏名】 大村 紘

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075281

【弁理士】

【氏名又は名称】 小林 和憲

【電話番号】 03-3917-1917

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011844

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

12

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯型プリンタ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 入力された画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う記録手段を備え、電源として内蔵電池を用いた携帯型プリンタにおいて、

入力された 1 コマ分の画像データの中から人物画像の画像データを抽出して残りの背景画像データを無効化するとともに、抽出された人物画像データに画像処理を施し、前記記録媒体に記録される人物画像の記録位置及びサイズが予め指定された条件を満たすように加工する画像加工手段を備え、この画像加工手段から得られる加工後の画像データにより前記記録手段を作動させて前記記録媒体に無背景の人物画像を記録することを特徴とする携帯型プリンタ。

【請求項 2】 被写体画像を撮像するイメージセンサを有し、イメージセンサから得られた撮像信号をデジタル変換して画像データとしてメモリに記憶する撮像装置と、前記メモリから読み出した画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う通常モードと、前記メモリから読み出した画像データを前記画像加工手段に入力して加工後の画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う証明写真作成モードのいずれかを選択するプリントモード選択手段とを備えたことを特徴とする請求項 1 記載の携帯型プリンタ。

【請求項 3】 前記記録媒体は、インスタントフィルムであり、前記記録手段は、入力された画像データに基づいて前記インスタントフィルムに光学的に画像を露光することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の携帯型プリンタ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯型プリンタに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

運転免許証等の各種免許証や旅券等の申請時に添付する写真（以下証明写真という）は、そのサイズや人物画像の配置状態等が定められている。例えば、旅券

用の証明写真では、図14に示すように、無帽、無背景で頭部（顔及び頭髪）から肩口までを正面から写し、写真サイズの縦Aが4.5cm、横Bが3.5cmであり、証明写真上の頭部画像のサイズ（顎から頭の頂上までの長さ）Cが27mm±2mmで、その配置が証明写真の左端から頭部画像の中心までの長さDが17mm±2mm、証明写真の上端から頭部の頂上までの長さEが7mm±2mmとなるように写真規格が定められている。また、運転免許証の更新時に添付する証明写真は、申請人を無帽、無背景で上三分身を写し、写真サイズの縦が3.0cm、横が2.4cmとされている。このように、証明写真では、写真サイズ、背景、人物のサイズ、配置等が定められている。そして、証明写真を得るには、通常、カメラマンがカメラを用いて上記のような写真規格に合致するようにして撮影したり、証明写真作製装置で撮影を行い、必要な証明写真を作成する。

【0003】

一方、ビデオカメラやデジタルカメラによって撮像された画像や、一般的な写真カメラによって得られたプリント写真等のフルカラー画像をデジタル変換してプリントするカラープリンタが各種販売されている。また、メモリーカード等から読み出した画像データに対してデジタル処理を行い、種々の画像加工を施した画像をプリントするようにしたプリンタも知られている。

【0004】

さらに、記録媒体としてインスタントフィルムを用い、画像データで記録ヘッドを駆動することにより、この記録ヘッドからの3色の光でインスタントフィルムを露光しプリント写真を作成する携帯型のプリンタや、このようなプリンタをデジタルカメラに内蔵して、デジタルカメラで撮像した画像をプリント写真としてプリントできるようにしたプリンタ内蔵型のデジタルカメラが本出願人により発表されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、上記のようなプリンタで証明写真を作成することは可能であるが、この場合にはインスタントフィルムに露光される人物のサイズや配置、背景が上記のような写真規格に合致するようにした画像が予め用意しておく必要や、上記

のようなプリンタを内蔵したデジタルカメラで撮像した画像を用いる場合には、撮像段階で写真規格を満たすように撮像しておく必要がある。すなわち、日常生活の通常的环境下で風景や建物、家具等が背景として写し込まれている人物画像や、人物のサイズや配置等が写真規格に合致しない人物画像を用いてプリンタで証明写真を作成することができなかった。このため、写真規格に合致しない人物画像を用いて証明写真を作成しようとするれば、別途、画像加工ソフトが導入されたパーソナルコンピュータ等を用意したり、これで画像加工を行うための多数の操作を必要とするため、簡単に証明写真を作成することができない。

【0006】

なお、現在知られている上記のように画像加工機能を有したプリンタでは、その画像加工が装飾フレームやキャプションを合成するといったプリント画像に楽しさを付加することを目的としているものであって証明写真を作成するための画像加工が行えるものではなく、またそれを示唆するものもない。

【0007】

本発明は上記問題点を解消するためになされたもので、無背景でない人物画像や、人物のサイズや配置等が写真規格に合致しない人物画像からでも簡単に所定の写真規格の証明写真を作成できるようにした携帯型プリンタを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記目的を達成するために、請求項1記載の発明では、入力された1コマ分の画像データの中から人物画像の画像データを抽出して残りの背景画像データを無効化するとともに、抽出された人物画像データに画像処理を施し、記録媒体に記録される人物画像の記録位置及びサイズが予め指定された条件を満たすように加工する画像加工手段を備え、この画像加工手段から得られる加工後の画像データにより記録手段を作動させて前記記録媒体に無背景の人物画像を記録するものである。

【0009】

また、請求項2記載の発明では、被写体画像を撮像するイメージセンサを有し

、イメージセンサから得られた撮像信号をデジタル変換して画像データとしてメモリに記憶する撮像装置と、前記メモリから読み出した画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う通常モードと、前記メモリから読み出した画像データを画像加工手段に入力して加工後の画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う証明写真作成モードのいずれかを選択するプリントモード選択手段とを備えたものである。さらに、請求項3記載の発明では、記録媒体を、インスタントフィルムとし、記録手段を、入力された画像データに基づいて前記インスタントフィルムに光学的に画像を露光するものとしたものである。

【0010】

【発明の実施の形態】

図2及び図3に、本発明を実施した携帯型のプリンタの正面側及び背面側の外観を示す。このプリンタは、人物画像に画像加工を行うことにより旅券の申請時等に添付する証明写真を作成できる他、デジタルスチルカメラの機能を有している。

【0011】

プリンタボディ2の前面に撮像レンズ3が組み込まれ、その結像面にはCCDイメージセンサが設けられている。CCDイメージセンサは、撮像レンズ3による光学画像を光電変換して撮像信号を得るためのもので、ほかにMOS型イメージセンサなどを用いることもできる。また、プリンタボディ2の前面にはストロボ発光窓4、測距用の投・受光窓5、6、被写体輝度測定用の測光窓7が設けられている。プリンタボディ2の上面には、リリースボタン8、入力操作部9、表示部10、インスタントフィルムユニット11の排出口12が設けられている。プリンタボディ2の背面には、観察用スクリーン13が設けられている。

【0012】

電源スイッチ（図示省略）を投入した後、プリンタ上面に設けられたリリースボタン8を半押し操作すると、投光窓5から被写体に向かって近赤外域の測距光が投光され、その反射光を受光窓6の奥に設けたPSD（Position Sensitive Device）で受光することによって被写体距離の測定が行われ、また、測光窓7の奥に設けられたフォトランジスタによって被写体輝度の測定が行われる。さら

に、リリースボタン8を全押ししたときには、測定された被写体距離に応じて撮像レンズ3のピント合わせが行われ、また被写体輝度が所定レベル以下であるときにはストロボ発光窓4から被写体に向かってストロボ光が照射される。

【0013】

CCDイメージセンサは、撮像モード時には撮像を行い、撮像された光学画像は画素ごとに光電変換され撮像信号とされる。こうして得られた撮像信号に基づき、プリンタボディ2に内蔵された液晶ディスプレイユニット14（図4参照）に被写体画像がフルカラーで表示される。この表示画像は、プリンタボディ2の背面に設けられた観察用スクリーン13で観察することができる。撮像モード下では、CCDイメージセンサは撮像を継続する。したがって観察用スクリーン13にはリアルタイムで被写体画像が表示される。また、この観察用スクリーン13には、再生モード時、プリントモード時には静止画像が表示される。

【0014】

リリースボタン8を全押しすると、その時点でCCDイメージセンサから得られた1画面分の撮像信号がデジタル化された画像データに変換され、図3に示すようにプリンタボディ2の背面から装填された着脱自在なメモリカード15、あるいはプリンタボディ2に内蔵された内蔵メモリ16（図1参照）に書き込まれる。なお、画像データを保存する媒体としていずれを選択するかは操作入力部9の操作により適宜に設定可能で、その設定の内容は反射型液晶パネルで構成された表示部10で確認することができる。

【0015】

操作入力部9は、複数の設定ボタン9aやカーソルキー9bからなり、これらにより、種々のモード設定を行うことができる。例えば、メインモードの設定時には、CCDイメージセンサで撮像を行う撮影モード、メモリカード14やフラッシュメモリに記憶されている画像を再生する再生モード、画像をインスタントフィルム11にプリントするプリントモードを設定できる。また、撮像モード下では、ストロボ撮影の強制的なON/OFF切り換え、セルフタイマーモードの選択/解除、連写及び連写コマ数の設定/解除などの撮影モードに関する項目、再生モード下では、再生対象とする媒体を内蔵メモリ16にするか

メモ리카ード 15にするかの選択、再生画面のコマ番号指定、連続再生の指定／解除、画像加工など適宜の設定が可能である。

【0016】

さらに、プリントモード下では、操作入力部 9 を操作することにより、内蔵メモリ 16 及びメモ리카ード 15 の選択、インスタントフィルム 11 にプリントすべき画像の選択、プリントの実行指示の他、各種の証明写真を作成できる証明写真作成モードの選択、作成すべき証明写真の種類指定、証明写真作成時における画像のサイズ等の調節、証明写真作成用に作成された画像の保存の指示等を行うことができる。

【0017】

操作入力部 9 の操作でプリント実行を指示すると、排出口 12 からは、図 2 に示すようにプリント処理を終えたインスタントフィルム 11 が排出される。インスタントフィルム 11 はケースに 10 枚程度重ねて収納されたフィルムパック 17 (図 4 参照) とされて、プリンタボディ 2 の内部に装填される。プリンタボディ 2 の前面には、新たなフィルムパック 17 の装填及び空になったフィルムパックのケースの取り出しのためにパック装填蓋 19 が開閉自在に取付けられている。

【0018】

プリンタボディ 2 の側部には、電池装填室蓋 22 と、端子カバー 23 とが開閉自在に設けられている。電池装填室蓋 22 を開くと、電池装填室が露呈され、これに充電式、着脱式の電池パック 24 を装填したり、取り出したりすることができる。このプリンタは、電池装填室に装填された電池パック 24 を電源として動作する。端子カバー 23 を開くと、入出力端子群 25 (図 1 参照) が露呈され、この入出力端子群 25 に各種の外部機器を接続することができる。プリンタは、入出力端子群 25 に接続された外部機器との間で画像データの入出力を行うことができる。

【0019】

図 4 にプリンタの要部断面を示す。パック装填蓋 19 の内壁にはパック押さえバネ 26 が設けられ、フィルムパック 17 をパック装填室内の所定位置に押しつ

けて位置決めする。パック装填蓋 19 の内壁には、さらにバネによって前方に突出付勢されたフィルム押圧部 27 が設けられており、フィルムパック 17 の背面壁に形成した開口を通してフィルムパック 17 内に侵入してインスタントフィルム 11 をフィルムパック 17 の前面内壁に押しつける。これにより、最上層のインスタントフィルム 11 がフィルムパック 17 の前面壁によって規制される露光位置に位置決めされる。

【0020】

インスタントフィルム 11 は、従来のインスタントカメラに用いられる周知のものであり、露光済みのインスタントフィルム 11 は、排出の際に、現像処理液の展開が行われる。このため、プリンタボディ 2 の内部には、展開モータ、掻き出しクロー、一対の展開ローラ 28 を含む展開機構が内蔵されている。展開モータが起動すると、フィルムパック 17 内の最上層のフィルムユニット 11 の下端に掻き出しクローが係合し、掻き出しクローの移動とともにインスタントフィルム 11 が上方に持ち上げられる。

【0021】

フィルムパック 17 及びパック装填室の上壁にはスリットが形成され、掻き出しクローによって持ち上げられたインスタントフィルム 11 の上端がすでに回転中の一対の展開ローラ 28 の間に入り込み、以後は展開ローラ 28 によってインスタントフィルム 11 が排出口 12 から排出される。このときインスタントフィルムユニット 11 に内蔵された現像液ポッド 11a が展開ローラ 28 によって押しつぶされ、インスタントフィルム 11 の感光シートと受像シートとの間に現像処理液が均一な厚みで展開される。こうして現像処理液が展開されたインスタントフィルム 11 は、1～数分の現像、定着時間が経過すると、感光シートへの露光によって形成された潜像が受像シートに転写現像され、受像シート面側からプリント画像を観察することができる。

【0022】

なお、インスタントフィルム 11 は決まったサイズであり、一回の展開処理に必要な展開モータの回転量は一定しているから、展開モータは展開機構が 1 サイクルの作動が完了した時点で自動停止するようになっている。また、受像シート

側でプリント画像が表示範囲は、例えば縦（排出方向と直交する方向の長さ）が約90mm、横（排出方向に沿った方向の長さ）が約70mmとなっており、前述した旅券用の証明写真の画像を2行2列で4個露光できるサイズとなっている。

【0023】

パック装填室の上方で、撮像レンズ3の奥には、CCDイメージセンサ30が配されており、このCCDイメージセンサ30によって画像が撮像される。また、液晶ディスプレイユニット14は、プリンタボディ2内の背面側上部で前方を向いて配置されている。

【0024】

記録手段を構成する上記液晶ディスプレイユニット14は、従来のカラー液晶モニタと異なり、透過型液晶表示パネルを背面側から消費電力の小さい発光ダイオードを用いて照明する。この液晶ディスプレイユニット14は、図5に示すように、箱型の筐体34に回路基板35、拡散板36、液晶表示パネル37、透明な保護ガラス38を順に組み込んだものである。回路基板35のほぼ中央には、フルカラー画像を得るための3色の基本色光としての赤色、緑色、青色光を出力する、赤色発光ダイオード35R、緑色発光ダイオード35G、青色発光ダイオード35Bが実装されており、これらが液晶表示パネル37を背面側から照明する光源として用いられる。

【0025】

回路基板35は、筐体34の背後に形成された開口を通して表示駆動回路38（図1参照）と電氣的に接続される。回路基板35には、さらにフレキシブルプリント板（図示省略）を介して液晶表示パネル37が接続されている。そして、表示駆動回路38から供給される信号に基づいて、各発光ダイオード35R、35G、35Bの点滅制御が行われ、また液晶表示パネル37の駆動制御が行われる。

【0026】

液晶表示パネル37は、例えば4.5×3.5mmの矩形サイズの中に、多数の液晶ドットセグメントをマトリクス状に二次元配列したもので、従来のカラー

液晶モニタのように、カラーマイクロフィルタとは組み合わされておらず、アクティブ駆動方式によりドットセグメントごとに高速駆動される。このような液晶表示パネル 37 には、例えば米国コピン (Kopin) 社の「Cyber Display」(商品名) を用いることができる。

【0027】

拡散板 36 は、各発光ダイオード 35 R, 35 G, 35 B からの色光を拡散させる。これにより液晶表示パネル 37 の背面が各々の色光によって均一に照明されるようになる。このような拡散板 36 は、例えば乳白色をしたプラスチックプレートや、アクリル樹脂などのような透明なプラスチックプレート中に光拡散性に富んだ微細なビーズを多数混入させたものを用いることができる。

【0028】

上記のように構成された液晶ディスプレイユニット 14 にフルカラーで画像の表示を行うときには、基本色光ごとの画像データを得た後、これらの画像データを基本色光ごとに順次に液晶表示パネル 37 に供給する。赤色用、緑色用、青色用の各画像データを順次に液晶表示パネル 37 に供給すると、液晶表示パネル 37 を構成している全ての液晶ドットセグメントにより、赤色用、緑色用、青色用の各画像がドットごとの濃淡分布パターンとして順次に表示される。

【0029】

液晶表示パネル 37 に各色の画像を順次に切り換え表示させることに同期して各発光ダイオード 35 R, 35 G, 35 B の発光トリガ信号を得、対応する基本色光の発光ダイオードを所定時間点灯させる。これにより、液晶表示パネル 37 に赤色画像の濃淡が表示されているときには赤色発光ダイオード 35 R による照明が行われ、液晶ディスプレイユニット 14 は赤色画像を表示する。同様に、液晶表示パネル 37 に緑色画像、青色画像の濃淡が表示されているときには、緑色発光ダイオード 35 G, 青色発光ダイオード 35 B が点灯し、それぞれ緑色画像、青色画像の表示が行われる。

【0030】

こうして時系列的に赤色画像、緑色画像、青色画像が順に繰り返して表示されるが、その切り換え周波数が十分に高ければ、これを観察したときには色ごとの

画像が残像効果によって網膜上で重なり合い、フルカラー画像として認識されるようになる。もちろん、発光ダイオードの点滅同期させて各色の画像の切り換えを行ってもよい。

【0031】

液晶ディスプレイユニット14で表示される画像の明るさは、各発光ダイオード35R、35G、35Bの点灯時間を調節するほかに、各発光ダイオード35R、35G、35Bの駆動電流を調節することで調節が可能である。また、各々の発光ダイオードは発光色ごとに発光効率（発光輝度／駆動電流）が異なっているのが普通であるから、これに対応して各発光ダイオードの点灯時間や駆動電流の設定を行ってカラーバランスを調節することができる。なお、発光ダイオードの発光効率に応じて液晶ドットセグメントの透過濃度を補正することも可能である。

【0032】

この液晶ディスプレイユニット14によれば、液晶表示パネル37を構成している液晶ドットセグメント一個一個が各色の画像の画素として用いられることになるため、従来のマイクロカラーフィルタを併用したカラー液晶モニタと比較して高精細にフルカラー画像を表示することができる。また、液晶表示パネル37を照明する光源として電力消費の大きい蛍光灯を用いていないので、内蔵型の電池パック24だけでも長時間の使用が可能となって、携帯性が向上する。

【0033】

液晶表示パネル25の表示画面サイズが前述のように4.5×3.5mm程度であると、そのまま裸眼で観察するには画像が小さすぎ、またインスタントフィルム11を露光するにも小さすぎるので、本実施形態のプリンタでは、観察用スクリーン13及びインスタントフィルム11に液晶ディスプレイユニット14に表示される画像を拡大投影するようになっている。

【0034】

図4に示されるように、液晶ディスプレイユニット14の正面には、反射ミラー41が配置されている。反射ミラー41は、液晶ディスプレイユニット14に表示された画像を下方に向けて反射し、反射ミラー41の下方に配置されたレン

ズユニット42に入射する。レンズユニット42の下方には、光路切り換え用の可動ミラー43が設けられ、実線で示す画像観察位置と、二点鎖線で示すプリント位置との間で回動自在になっている。この可動ミラー43は、ミラー切り換えソレノイド44（図1参照）によって、回動される。

【0035】

可動ミラー43が画像観察位置にあるときには、液晶ディスプレイユニット14に表示された画像は、観察用スクリーン13に向けて反射され、結像される。観察用スクリーン13は、例えば、表面にマット面が形成されて半透明とされたガラスやプラスチックで形成されている。これにより、プリンタの外から液晶ディスプレイユニット14に表示された画像を拡大して画像を観察することができる。なお、液晶ディスプレイユニット14に表示される画像は、反射ミラー414と可動ミラー43とで2回反射されるため、液晶ディスプレイユニット14に表示される画像が、同じ向きで観察用スクリーン13に表示される。

【0036】

また、ミラー切り換えソレノイド44がオンすると可動ミラー43がプリント位置に移動し、液晶ディスプレイユニット14に表示された画像は、反射ミラー41、レンズユニット42、及び可動ミラー43の下方に配された露光ミラー45からなるプリント光学系により、インスタントフィルムユニット11に拡大して結像される。これにより、液晶ディスプレイユニット14で表示される画像がインスタントフィルム11の露光シートに露光される。

【0037】

例えば、前述のように液晶表示パネル37のサイズを4.5×3.5mm、インスタントフィルム11の受像シート側の画像の表示範囲を90×70mmとすれば、液晶表示パネル37上の画像は、20倍に拡大してインスタントフィルム11に露光される。

【0038】

図1に上記プリンタの電氣的構成を概略的に示す。システムコントローラ50はマイクロコンピュータで構成され、リリースボタン8や入力操作部9からの操作入力に応じてプリンの全体的な作動を制御するとともに、画像加工手段となっ

ており画像データに対してデータ処理を行うことで画像加工を行う。システムコントローラ 50 によって実行される各種のシーケンス処理プログラムは、プログラムメモリ 51 に書き込まれている。

【0039】

CCD イメージセンサ 30 は、撮像モードに設定されているときには CCD ドライバ 52 の駆動によりに撮像を行う。CCD イメージセンサ 30 の光電面には、画素ごとに R、G、B の微小なマイクロカラーフィルタがマトリクス状に配列され、これらを通じた入射光によって画素ごとに電荷の蓄積が行われる。電荷の読み出しによりシリアルな撮像信号が得られ、アンプ 53 によって適切なレベルに増幅された後、A/D コンバータ 54 によってデジタル変換される。

【0040】

デジタル変換によって得られた赤色、緑色、青色の画像データは、画像データ処理回路 55 に入力される。画像データ処理回路 55 は、入力されてくる画像データに対してマトリクス演算、ホワイトバランス調節、ガンマ補正などの周知のデータ処理を行った画像データを生成する。この生成された画像データは、D/A コンバータ 56、アンプ 57 を経て NTSC 方式のコンポジット信号にされ、画像信号用の出力端子 58 に出力される。したがって、出力端子 58 に家庭用のテレビジョンモニタを接続しておけば、撮像レンズ 3 を通して CCD イメージセンサ 30 で撮像される連続的なフルカラー画像をリアルタイムで観察することができる。

【0041】

画像データ処理回路 55 から出力される画像データは、表示駆動回路 38 の表示制御コントローラ 60 にも入力される。表示駆動回路 38 は、この表示制御コントローラ 60 の他に、バッファメモリ 61、D/A コンバータ 62、LCD ドライバ 63、LED ドライバ 64 から構成されている。表示制御コントローラ 60 は、画像データ処理回路 55 からの画像データを受け、赤色、緑色、青色の画像データをそれぞれバッファメモリ 61 に書き込む。

【0042】

バッファメモリ 61 に書き込まれた画像データは、表示制御コントローラ 60

によって色ごとに順次に読み出され、D/Aコンバータ62によるアナログ変換の後に、所定の周期でLCDドライバ63に供給される。これにより液晶表示パネル37には、赤色、緑色、青色の画像が順次に表示される。また、画像の表示切り換えに同期して、LEDドライバ64にLED点滅切り換え信号が入力され、各発光ダイオード35R、35G、35Bが順次に点滅を行って画像の表示が行われる。

【0043】

バッファメモリ61に書き込まれた画像データは、CCDイメージセンサ30によって1画面分の撮像信号が得られ、A/Dコンバータ54を経て1画面分の画像データが画像データ処理回路55に入力されるごとに逐次に更新される。

【0044】

システムコントローラ50は、内蔵メモリ16、EEPROM66、装飾データメモリ67、ワークメモリ68との間でデータの授受を行う。EEPROM66には、各種の補正データ、制御データが書き込まれており、このプリンタを規定のシーケンスプログラムにしたがって動作させるときに適宜のタイミングで読み出されて利用される。内蔵メモリ16は、リリースボタン8の操作によって撮像が行われたときに画像データ処理回路44から得られた1画面分の画像データを記憶し、例えば50画面分の画像データを記憶できる記憶容量をもつ。

【0045】

装飾データメモリ67には、被写体画像を取り囲む装飾フレームの形状や模様を様々な形態に変える装飾データが予め書き込まれている。なお、この装飾データメモリ67に、キャラクタ、マーク、文字、メッセージなどのデータを用意しておき、画像の一部にこれらを合成できるようにしておいてもよい。これらのデータは、再生モード時、及びプリントモード時に読み出し可能となる。

【0046】

ワークメモリ68は、再生モード時及びプリントモード時にシステムコントローラ50が画像加工等を行う際に利用される。また、このワークメモリ68は、証明写真を作成するときの画像加工を行う際にも用いられる。画像加工としては、前述の装飾フレームを画像に合成する画像合成、証明写真の作成の他、画像を

鮮鋭化する鮮鋭化処理、画像の色調を変更する処理等の各種の画像加工が予め用意されている。

【0047】

また、システムコントローラ50は、I/Oポート69を介して入力操作部9からの操作入力を監視し、AF（オートフォーカス）装置70、ストロボ装置72、展開モータ73の作動を制御する。展開モータ73は、前述の展開機構を駆動する。また、システムコントローラ50は、I/Oポート69を介して、プリンタに装着されたメモリカード15、データ入出力端子群25にアクセスして画像データの授受を行う。

【0048】

システムコントローラ50は、内蔵メモリ16、ワークメモリ68、メモリカード15等から読み出した画像データを画像データ制御回路55に送ることにより、この画像データに基づいた画像を液晶ディスプレイユニット14に表示する。これにより、内蔵メモリ16、メモリカード15等に記憶されている画像はもちろんとして、証明写真の作成や装飾フレーム等の画像加工された画像を観察用スクリーン13で観察でき、またインスタントフィルム11に露光することができる。

【0049】

プリントモード下で証明写真作成モードが選択することにより、人物を含んだ画像から旅券用の証明写真、運転免許証の更新用の証明写真を作成することができる。証明写真作成モード時には、選択された画像から人物領域を判定し、それ以外の部分（背景領域）に無背景データを書き込むことによって、入力された画像の背景領域の背景画像データを無効化して無背景にする。また、画像中の人物領域の形状、サイズに基づいて、画像のトリミング及び拡大縮小を行い、画像中の人物が選択されている証明写真の種類の写真規格に合致したサイズ、配置でインスタントフィルム11に露光されるように画像加工する。

【0050】

例えば、旅券用の証明写真を作成するときには、インスタントフィルム11上で、証明写真上の頭部のサイズ（顎から頭の頂上までの長さ）が $27\text{ mm} \pm 2\text{ mm}$

mで、その配置が証明写真の左端から頭部画像の中心までの長さDが $17\text{ mm} \pm 2\text{ mm}$ 、証明写真の上端から頭部の頂上までの長さEが $7\text{ mm} \pm 2\text{ mm}$ となるようにし、その1枚の証明写真のサイズが縦 4.5 cm 、横 3.5 cm となるように無背景とされた画像のトリミング及び拡大縮小を行って、旅券用の証明写真の写真規格に合致させた画像データを画像加工により作成する。また、運転免許証の更新時に添付する証明写真を作成するときには、1枚の証明写真のサイズが縦 3.0 cm 、横 2.4 cm で、人物の上三分身がプリントされるように、無背景とされた画像のトリミング及び拡大縮小を行う。

【0051】

このプリンタでは、実際にプリントを行う際には、上記のようにして得られた画像をマトリクスに配列して、インスタントフィルム11に露光することで、1枚のインスタントフィルム11にそのサイズに応じた枚数の証明写真を露光する。したがって、例えば旅券用の証明写真の作成時には、1枚のインスタントフィルム11に4枚分の画像が同時に露光される。

【0052】

証明写真用に画像加工成された画像データは、ワークメモリ68から画像データ処理回路55に送られて観察用スクリーン13に表示されることで、作成する証明写真の形態を確認できる。この表示の際に、操作部9を操作することで、証明写真1枚分の画像とその周辺部を表示する1コマ表示モードと、インスタントフィルム11上に露光される実際の形態を表示する全コマ表示モードとを選択することができる。

【0053】

また、システムコントローラ50は、1コマ表示モード時では、画像中から判定した頭部や上三分身の範囲を示す2本の範囲線、頭部の中心を示す頭部中心線、実際にプリントされる1枚の証明写真の範囲を示すトリミング枠からなるガイドラインを画像データ処理回路55を介して液晶ディスプレイユニット14に表示する。これらのガイドラインのうちの範囲線は上下に、頭部中心線は左右にそれぞれ操作入力部9を操作することによって移動することができる。これにより、何らかの理由で人物のサイズや配置等が適切なものに画像加工されなかった場合

には、手動で調節することができる。なお、トリミング範囲枠は、範囲線，頭部中心線が移動された際に、この移動結果に基づいてシステムコントローラ 50 により、選択されている証明写真の種類に応じた大きさ及び位置に自動的に更新される。さらに、証明写真作成モードで作成された画像は、内蔵メモリ 16 やメモリカード 15 等へ書き込んで保存しておくことができる。

【0054】

次に上記構成の作用について図 6 ないし図 9 のフローチャートを参照しながら説明する。電源スイッチを投入すると、モード確認が行われ、入力操作部 9 からの操作入力に応じて撮像モード／再生モード／プリントモードのいずれかに分岐する。なお、いずれかのモードに分岐した後であっても、操作入力部 9 の操作で他のモードに移行することができる。

【0055】

撮像モード下では、CCD イメージセンサ 30 による被写体画像の撮像が継続的に行われ、撮像信号はアンプ 53，A/D コンバータ 54 を経てデジタル化された画像データとして画像データ処理回路 55 へ入力される。画像データは、画像データ処理回路 55 によってデータ処理された後、表示制御コントローラ 60 によりバッファメモリ 61 へ書き込まれる。バッファメモリ 61 へ書き込まれたフルカラー画像 1 枚分の画像データは、赤色，緑色，青色の画像単位で順次に読み出され、D/A コンバータ 62 でアナログ信号に変換された後に LCD ドライバ 63 へ入力される。

【0056】

これに同期して、表示制御用コントローラ 60 が LED 点滅切り換え信号を LED ドライバ 64 へ入力することで、赤色発光ダイオード 35 R，緑色発光ダイオード 35 G，青色発光ダイオード 35 B が順次に点滅を繰り返す。これにより液晶ディスプレイユニット 14 に色順次式にフルカラー画像の表示が行われ、この表示された画像は反射ミラー 41，レンズユニット 42，可動ミラー 43 からの投影光学系によって拡大投影され、観察用スクリーン 13 の裏面側に結像する。バッファメモリ 61 の画像データは、随時更新されるから、撮影者は、観察用スクリーン 13 によって、CCD イメージセンサ 30 により撮像されている画像

をリアルタイムに観察することができる。

【0057】

リリースボタン8を半押しするとAF装置70が作動して被写体距離の測定が行われ、また測光窓7を通して被写体輝度の測定が行われる。続いてリリースボタン8を全押しすると、測定された被写体距離に応じて撮影レンズ3のピント合わせが行われた後、静止画像の撮像が行われる。なお、被写体輝度が規定レベル以下であるときにはストロボ装置72が作動してストロボ発光窓4から被写体に向けてストロボ光が照射される。

【0058】

リリースボタン8を全押しした直後にCCDイメージセンサ30から得られた1画面分の撮像信号は、上記同様にして画像データに変換された後、画像データ処理回路55に入力される。そして、画像データ処理回路55によってデータ処理された後、そのフルカラー画像1枚分の画像データは、システムコントローラ50を介して内蔵メモリ16に転送され、書き込まれる。内蔵メモリ16はフルカラー画像50枚分のメモリ容量を有しているから、同様にして50枚分の静止画像の画像データを記憶することができる。なお、入力操作部9によって画像データの記録先の媒体としてメモリカード15が選択されているときには、I/Oポートを介してメモリカード15に画像データが記録される。

【0059】

内蔵メモリ16に50枚分の画像データを書き込んだ後にでも、適宜、画像データを消去したり、メモリカード15に転送すれば新たな撮像で得た画像データを記憶させることが可能である。これらの処理は、入力操作部9からのキー入力で行うことができる。また、データ入出力端子群25に他の媒体や外部機器を接続しておけば、それに新たな撮像で得た画像データを記憶させたり、内蔵メモリ16やメモリカード15から読み出した適宜のコマの画像データを転送して記憶させることも可能となる。

【0060】

再生モード下では、入力操作部9からのキー入力により、画像の選択を行う。この選択では、メモリカード15や内蔵メモリ16、データ入出力端子群25に

接続された媒体、外部機器のいずれかの媒体を選択してから画像を選択する。入力操作部 9 を操作することで、選択された媒体から 1 画像分の画像データがシステムコントローラ 50 によって読み出され、その画像データが画像データ処理回路 55 を経て表示制御コントローラ 60 に入力され、バッファメモリ 61 に格納される。バッファメモリ 61 に書き込まれた画像データは、繰り返し読み出されることによって、液晶ディスプレイユニット 14 にその画像データによるフルカラーの静止画像を継続的に表示され、観察用スクリーン 13 によって随時観察することができる。このようにして任意の画像を観察用スクリーン 13 に表示して観察することができる。なお、画像毎に付与されたコマ番号を入力して、その画像を表示するようにしてもよい。

【0061】

また、この再生モード下で入力操作部 9 からのキー入力により、画像加工が選択された場合には、現在観察用スクリーン 13 に表示されている画像の画像データが内蔵メモリ 16 から読み出されてワークメモリ 68 に書き込まれる。そして、このワークメモリ 68 上で、選択された画像加工が施される。例えば、装飾フレームの選択操作が行われているときには、装飾データメモリ 67 から読み出された装飾フレームデータがワークメモリ 68 上で画像データに合成され、この合成された画像データがバッファメモリ 61 に転送される。これにより、液晶ディスプレイユニット 14 には再生された画像と装飾フレームとの合成画像が表示され、この合成画像を観察用スクリーン 13 によって観察することができる。

【0062】

また、鮮鋭化処理を選択すれば、ワークメモリ 68 上の画像データに対して鮮鋭化の演算処理が行われ、画像がボケが少なくなるように画像加工が施される。そして、この画像データに基づいて液晶ディスプレイユニット 14 に画像が表示されるから、観察用スクリーン 13 で鮮鋭化された画像を観察することができる。

【0063】

こうして液晶ディスプレイユニット 14 に再生された画像については、さらに入力操作部 9 を操作することによって、その画像データを内蔵メモリ 16 やメモ

リカード15, データ入出力端子群25に接続された媒体や外部機器に保存することができ、この保存した画像データを読み出せば、この画像が観察用スクリーン13に表示される。したがって、画像加工を施した画像を保存しておけば、この保存された画像データに基づいて、次の再生時に画像加工を施した画像を再生することができる。

【0064】

入力操作部9を操作して、プリントモードが選択されると、通常モード/証明写真作成モードのいずれかの入力の待機状態となる。例えば、この待機状態で通常モードが選択されて、通常モードとなると、プリント対象画像の選択入力の待機状態となる。プリント対象画像の選択は、再生モード時と同様にして行う。

【0065】

選択した媒体からシステムコントローラ50によって読み出された画像データは、画像データ処理回路55でデータ処理された後に表示制御コントローラ60によってバッファメモリ61に書き込まれ、再生モード時と同様にバッファメモリ61から読み出されることにより、液晶ディスプレイユニット14にフルカラー画像として表示され、これが観察用スクリーン13に拡大して表示される。そして、操作者は、操作入力部9を操作して観察用スクリーン13にプリント対象画像を表示された状態とする。

【0066】

プリント対象画像が表示された状態にした後、必要に応じて画像加工を選択すれば、再生モード時と同様にして、ワークメモリ68上で画像加工が施された画像データがバッファメモリ61に転送される。そして、画像加工が施されたプリント対象画像が液晶ディスプレイユニット14に表示され、これを観察用スクリーン13で観察することができる。もちろん、画像加工を施した画像を保存する必要がある場合は、操作入力部9を操作することで、選択した媒体にその画像データを保存することができる。なお、ここまでの処理は再生モードと全く共通であるから、再生モードに続いて通常モードに移行できるようにしておいてもよい。

【0067】

上記のようにしてプリント対象画像を選択し、必要に応じて画像加工を行った

後に、この画像をプリントする場合には、操作入力部 9 を操作してプリント実行を指示する。プリント実行の指示がシステムコントローラ 50 によって検知されると、赤色発光ダイオード 35 R, 緑色発光ダイオード 35 G, 青色発光ダイオード 35 B の全てが一旦消灯されて、液晶ディスプレイユニット 14 での画像表示が中断される。続いてミラー切り換えソレノイド 44 がオンして可動ミラー 43 が画像観察位置からプリント位置に回動する。図示しないフォトセンサあるいはマイクロスイッチ等のセンサにより、可動ミラー 43 がプリント位置に切り換えられたことが確認されると、システムコントローラ 50 の制御下で表示制御コントローラ 60 によって露光処理が行われる。

【0068】

露光処理は、インスタントフィルムユニット 11 のもつ ISO 感度と、反射ミラー 41, レンズユニット 42, プリントミラー 45 で構成されるプリント光学系の特性とを考慮し、適正露光量が得られるように赤色発光ダイオード 35 R, 緑色発光ダイオード 35 G, 青色発光ダイオード 35 B の点灯時間を制御することによって行われる。

【0069】

露光処理で各発光ダイオード 35 R, 35 G, 35 B の点灯時間を制御するにあたっては、再生モード時と同様に赤色, 緑色, 青色の画像を順次に繰り返し液晶表示パネル 37 に表示し、これに同期して各発光ダイオード 35 R, 35 G, 35 B を点灯させる場合には、繰り返し回数を適正露光量に応じて決めればよい。また、赤色画像を表示したまま赤色発光ダイオード 35 R を赤色の適正露光量に達するまで連続点灯させ、次に緑色, 青色の画像を順に表示しながら緑色発光ダイオード 35 G, 青色発光ダイオード 35 B をそれぞれ必要な時間だけ連続点灯させて、露光を終了させてもよい。

【0070】

このようにして液晶ディスプレイユニット 14 に表示されたプリント画像は拡大してインスタントフィルム 11 に結像されることになるが、液晶表示パネル 39 を構成する液晶ドットセグメントの個々は基本色光の各々に対して 1 画素として用いられているため、インスタントフィルム 11 上でも十分に高精細なプリン

ト画像を得ることができる。

【0071】

なお、液晶ディスプレイユニット14に表示されたプリント画像は、反射ミラー41及び反射ミラー45によって2回反射してインスタントフィルム11の感光シート上に結像され、またインスタントフィルム11上に得られるプリント画像は、感光シートと反対側の受像シート側から観察されることになるため、液晶ディスプレイユニット14には通常の姿勢でプリント画像を表示しておけばよい。また、プリント時には、可動ミラー43が観察用スクリーン13から入射する外光を遮断するため、外光がインスタントフィルム11に入射することはない。

【0072】

このようにして液晶ディスプレイユニット14による露光が完了すると、排出処理が行われる。展開モータ72の駆動が開始され、露光済みのインスタントフィルム11が掻き出しクローによって上方に持ち上げられ、その上端が展開ローラ28の間に送り込まれる。展開ローラ28は、展開モータ72の駆動開始とともに回転を開始しているから、インスタントフィルム11の上端がその間に送り込まれると、これが排出口12に向かって送り出される。

【0073】

展開ローラ28の間を通過する際に、現像液ポッド11aが押しつぶされ、その中に封入されていた現像処理液が感光シートと受像シートとの間に均一に展開される。展開モータ72が規定の回転量に達すると、インスタントフィルム11は展開ローラ28の間を通過し終わり、この時点で展開モータ72の駆動が停止して1サイクルの排出処理が完了する。こうして展開された現像処理液によって感光シートに形成された潜像が受像シートに転写され、現像、定着処理に必要な所定時間が経過すると、インスタントフィルム11のベース面側からプリント画像を観察することができるようになる。

【0074】

展開処理が完了すると、ミラー切り換えソレノイド44がオフして可動ミラー43がプリント位置から画像観察位置に戻る。可動ミラー43が画像観察位置に戻ると、表示制御コントローラ60によって、再生モード時と同様にバッファメモ

リ61から画像データが読み出され、液晶ディスプレイユニット14には再びプリント対象画像が表示される。ここで、再びプリントスタート入力を行うと、同じ画像の2枚目のプリントを行うことができる。もちろん、プリント対象画像を選択し直したときには、同様の手順でそのプリントを得ることができ、画像加工処理を行ってれば、その画像加工処理が施された画像のプリントを得ることができる。

【0075】

一方、旅券等の申請時に添付する証明写真を作成する場合には、プリントモードを選択した後に、証明写真作成モードを選択する。証明写真作成モードが選択されると、図8に示すように画像の選択待機状態となる。このときにも、通常モードと同様にして、操作入力部9を操作して画像を選択するが、作成する証明写真の写真規格を満たす人物の姿勢、範囲を含み、かつ人物の部分に規格に合致しないものがない画像を選択する必要がある。

【0076】

例えば、旅券用の証明写真を作成する場合では、帽子やサングラス等を着用していない人物の正面の画像で、頭部はもちろんと肩口までの範囲を含む画像を選択する。また、運転免許証の更新時に添付する証明写真を作成する場合では、帽子やサングラス等を着用していない人物の正面の画像で、上三分身を含む画像を選択する。なお、これらの証明写真の写真規格では、無背景も条件となっているが、これに関しては無背景とする処理を行うので特に無背景の画像を選択する必要はないが、無背景や単純な背景の画像を選択すれば、人物領域の判定をより高精度でできる。もちろん、無背景の画像を用いる場合に、後述する無背景とする処理を行わないようにしてもよい。

【0077】

観察用スクリーン13に上記のような条件を満たす画像が表示された状態で、入力操作部9でこの画像を確定すると、この画像の画像データがワークメモリ68に書き込まれる。次に旅券用／運転免許証の更新用のいずれかの証明写真の種類を選択する状態となるから、この状態で入力操作部9を操作して作成すべき証明写真の種類を選択する。なお、証明写真の種類を選択してから、画像を選択す

るようにしてもよい。

【0078】

証明写真の種類として、例えば旅券が選択されると、システムコントローラ50は、ワークメモリ68上の画像データを用いて、旅券用の証明写真作成処理を行う。まず、ワークメモリ68上の画像データを調べて、選択された画像中で人物の部分である人物領域と、その背景である背景領域とを判定する。続いて、システムコントローラ50は、判定された背景領域に所定の無背景データ、例えば、薄い水色に相当する3色の画像データを書き込むことにより、選択された画像の背景を無背景とする。この後に、人物領域の画像データから頭髮部分と顔面部分からなる頭部輪郭を抽出する。

【0079】

なお、人物領域と背景領域や、頭部輪郭を判定する手法は、画像中の各画素の濃度（画像データの大きさ）、濃度差、濃度差から判断できる形状等を利用して判定する、例えば特開平8-122944号公報や特開平9-13841号公報等に記載された周知の手法を用いることができる。

【0080】

システムコントローラ50は、上記のようにして判定した頭部輪郭から、頭部のサイズ（顎から頭部の頂上までの長さ） α を算出する。1個の画像データと液晶ディスプレイユニット14の液晶ドットセグメントの対応個数、液晶ディスプレイユニット14で表示される画像がプリント光学系でインスタントフィルム11に投影されるときにの拡大倍率は、それぞれ既知で一定であるから、例えば、顎の先端に対応する画像データ（画素）と頭部の頂上部に対応する画像データとの間の画像データの個数を計数することにより、インスタントフィルム11上で頭部のサイズ α を算出することができる。

【0081】

システムコントローラ50は、インスタントフィルム11上での頭部のサイズ α を算出したならば、旅券用の証明写真で規定されている頭部のサイズCを α で除した拡大縮倍率 β （ $=C/\alpha$ ）を求める。この拡大縮倍率 β は、この倍率 β で縮小または拡大して現在選択されている画像を液晶ディスプレイ14に表示すれば、

その画像中の頭部が旅券用の写真規格に合致したサイズでインスタントフィルム 11 に投影されることを意味する。なお、旅券用の証明写真で規定されている頭部のサイズ C に対応する画像データの個数が予め分かるから、この個数と計数した画像データの個数とから拡大倍率 β を算出してもよい。

【0082】

また、システムコントローラ 50 は、頭部輪郭内の画像データから顎から頭部の頂上に向かう頭部中心線を判定する。次に、システムコントローラ 50 は、1 枚の証明写真の画像範囲に相当する矩形のトリミング範囲枠を判定する。この判定では、インスタントフィルム 11 に投影したときに、頭部の頂上と証明写真の上端との間の長さが写真規格の長さ E だけ離れるにし、また前述のようにして判定した頭部中心線と、トリミング範囲枠の上下方向に沿った中心線とが一致するようにする。

【0083】

上記処理の終了後、表示モードが確認され、1 コマ表示モード、全コマ表示モードのどちらかに分岐する。例えば、1 コマ表示モードが選択されている場合には、判定されたトリミング範囲とその周辺の画像データとが、比較的に大きく表示されるようにして適当な倍率で縮小あるいは拡大処理を施しながらワークメモリ 68 から読み出されて、バッファメモリ 61 に転送される。また、この転送時には、システムコントローラ 50 は、上記のようにして判定された頭部の上端と下端のそれぞれの位置を通る水平な 2 本の範囲線と、頭部の中心位置を通る垂直な中心線とトリミング範囲枠からなるガイドラインを表示するためのデータを画像データに対して付加する。これにより、液晶ディスプレイユニット 14 には、各種のガイドラインが合成された画像が表示され、これが観察用スクリーン 13 で観察できる。

【0084】

例えば、図 10 に示す画像 80 を選択して旅券用の証明写真の作成を指示すると、この画像 80 から人物領域（画像）81 の背景の背景領域 82 の画像データが無背景データに書き換えられ、無背景な画像とされる。そして、1 コマ表示モードでは、図 11 に示すように、判定されたトリミング範囲枠内とその周辺の画

像がガイドラインとともに観察用スクリーン 13 に表示される。このときに、頭部サイズ、頭部の中心線が正しく判定されている場合には、範囲線 84 a, 84 b は人物領域 81 の頭部画像 85 の上端及び下端を通るようにして、また頭部中心線 86 は頭部画像 85 の中心を通るように表示される。さらに、トリミング範囲枠 87 は、頭部画像 85 のサイズに対して比率が写真規格に応じたものとなるように、またその枠内に人物領域 81 が正しく配置されるようにして表示される。操作者は、これらのガイドラインの位置や範囲を観察することで、旅券用の証明写真を作成するための画像加工が正しく行われていることを確認できる。

【0085】

何らかの理由で画像加工が正しく行われなかった場合には、例えば図 12 に実線で示すように、範囲線 84 a, 84 b や頭部中心線 86 が、それぞれ対応すべき位置からずれて表示され、またトリミング範囲枠 87 のサイズや人物領域 81 に対する位置が不適切な状態で表示されるから、操作者は、画像加工が正しく行われなかったことを知ることができる。

【0086】

そして、このような場合には、操作入力部 9 を操作して、調節コマンドを選択する。調節コマンドを選択すると、操作入力部 9 の設定ボタン 9 a で範囲線 84 a, 84 b, 頭部中心線 86 を選択でき選択後、カーソルキー 9 b の操作で選択された範囲線 84 a, 84 b, 頭部中心線 86 のいずれかを移動することができるようになる。例えば図 12 示されるような状態の場合には、操作者は、操作入力部 9 を操作して、二点鎖線で示されるように、上側の範囲線 84 a を頭部画像 85 の頂上に、下側の範囲線 84 b を頭部画像 85 の顎の部分に、中心線 86 を頭部画像 85 の中心位置にそれぞれ移動する。そして、トリミング範囲枠 87 は、範囲線 84 a, 84 b, 頭部中心線 86 の移動によって設定された頭部サイズ及び頭部中心線の位置に応じた比率のサイズ及び位置に、システムコントローラ 50 により自動的に変更される。

【0087】

上記のようにして手動による調節を終了すると、この調節結果に基づいて拡張倍率 β が再算出された後に、表示モードを確認する処理に戻る。そして、1 コマ

表示を選択している状態では、上記の調節結果に基づいて作成された画像データがバッファメモリ 60 に転送され、結果として、図 11 に示すような画像が観察用スクリーン 13 で観察されるようになる。

【0088】

他方、全コマ表示モードが選択されている場合には、システムコントローラ 50 は、トリミング範囲枠内の画像だけの画像データを用いて、トリミング範囲枠内の画像が 2 行 2 列のマトリクス状に 4 個並べた画像データを作成する。このときに、インスタントフィルム 11 が横長の画面であるからトリミング範囲枠内の画像を横向きになるように回転処理するとともに、拡大縮小倍率 β で拡大または縮小処理して 4 個の画像をマトリクスに配列する。

【0089】

このようにして作成された画像の画像データは、バッファメモリ 61 に転送されて、液晶ディスプレイユニット 14 に表示される。結果として、例えば図 13 に示すように、旅券の証明写真用にトリミング及び配置、サイズ変更された 4 個の画像 88 が観察用スクリーン 13 で観察される。

【0090】

このようにして、1コマ表示モードあるいは全コマ表示モードで画像が表示されている間に書き込みを指示すれば、トリミング範囲枠内の画像データがメモリカード 15、内蔵メモリ 16 等へ書き込んで保存することができ、再度同じ証明写真を作成するときに利用できる。

【0091】

上記のようにして、1コマ表示モード、全コマ表示モードのいずれかで画像が適切になっていることを確認したならば、操作入力部 9 でプリント実行を指示する。システムコントローラ 50 は、1コマ表示モード時にプリント実行が指示されると、全コマ表示モード時と同様にして、液晶ディスプレイユニット 14 に 2 行 2 列でトリミング範囲枠内の画像が表示されるようにしてから、露光処理を行う。全コマ表示モードにプリント実行が指示された場合には、すでに 2 行 2 列でトリミング範囲枠内の画像が表示される状態となっているので、そのまま露光処理を行う。

【0092】

露光処理は、通常モードと同様にして、液晶ディスプレイユニット14による表示を中断してから可動ミラー43をプリント位置に回動し、この後に液晶ディスプレイユニット14による表示を行ってインスタントフィルム11に露光を行う。そして、この露光完了後に、インスタントフィルム11は現像処理液が展開されながら排出される。現像、定着処理に必要な所定時間が経過すると、インスタントフィルム11のベース面側からプリント画像が現れる。結果として、図13に示されるような形態で、証明写真4枚分の画像がプリントされたプリント写真が得られる。そして、各画像毎にその境界で切り分けることによりパスポート用の証明写真が完成する。得られた各証明写真は、人物画像のサイズ、配置及び写真サイズが旅券用の証明写真の写真規格に合致している。

【0093】

なお、運転免許証の更新用の証明写真を作成する場合には、パスポートとほぼ同様であるが、人物領域の形状等からの上三分身の範囲と、中心位置が判定される。そして、この判定結果に基づいて、トリミング範囲枠、拡大縮小倍率 β が決められて画像加工が施されてプリントされて、人物の配置及びサイズ、写真サイズが運転免許証の更新用の証明写真の写真規格に合致する証明写真が作成される。

なお、この場合にも、1枚の証明写真のサイズに応じて、所定の個数で画像がマトリクス状に配列されたものがインスタントフィルム11に露光される。

【0094】

上記のように、操作者は、通常は画像の選択と証明写真の種類を選択するといった簡単な操作で、その選択した証明写真の種類の写真規格に合致した証明写真を得ることができる。また、この実施形態のように、撮像レンズ3、CCDイメージサンサ30、これから得られる撮像信号を画像データに変換するための回路からなる撮像装置をプリンタに一体に設け、またプリンタを携帯型とすることにより、移動先や移動中でも必要となる画像を撮像し、所定の写真規格に合致した証明写真を作成することができる。もちろん、背景が無背景となるような場所で撮像を行う必要もない。

【0095】

なお、上記実施形態では、プリンタと撮像装置とを一体にした例について説明したが、プリンタ単体としてもよく、撮像装置を分離可能な形態にしてもよい。もちろん、プリンタ単体、あるいは撮像装置と分離された状態で携帯して利用できるようにすれば、元の画像さえ用意されていれば、移動先や移動中でも所定の写真規格に合致した証明写真を作成することができ便利となる。

【0096】

また、上記実施形態では、旅券用と運転免許証の更新用の証明写真を作成する例について説明したが、選択できる証明写真の種類及び種類数はこれに限らない。また、証明写真のサイズを自由に設定し、このサイズと同じアスペクト比の範囲を選択できるようにしておけば、未知の証明写真を簡単に作成できるようにすることができる。

【0097】

さらに、上記実施形態では、インスタントフィルムとしては、露光シートと反対側の受像シート側から画像を観賞するモノシートタイプを用いたが、本発明は、露光する面と観賞する面が同じにされたモノシートタイプや、ネガシートとポジシートを剥離する剥離方式、いわゆるピールアップタイプのインスタントフィルムを用いてもよい。さらに、液晶ディスプレイユニットで露光を行っているが、インスタントフィルムに対して露光ヘッドを相対移動させて、露光ヘッドからの光で画像を1ラインずつ露光するようにしてもよい。さらに、光学的に画像を露光して記録する他に、感熱方式や熱溶融方式、インクジェット方式、ゼログラフィ方式等で画像を記録するようにしてもよい。もちろん、記録方式に応じた最適な記録媒体を用いるのはいうまでもない。

【0098】

【発明の効果】

上述のように、本発明の携帯型プリンタによれば、人物画像の画像データを1コマ分の画像データの中から抽出して残りの背景画像データを無効化し、また抽出された人物画像データに画像処理を施して、記録媒体に記録される人物画像の位置及びサイズが予め指定された条件を満たすように加工して、加工後の画像データにより記録手段で無背景の人物画像を記録媒体に記録するから、通常的环境

下で撮像された人物を含む画像からでも各種の証明写真等の予め指定された条件を満たす画像を簡単に作成することができる。

【0099】

また、携帯型プリンタに撮像装置を組み込んで、この撮像装置から得られる画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う通常モードと、人物画像の位置及びサイズが予め指定された条件を満たすように加工する画像加工手段に入力して加工後の画像データに基づいて記録媒体に画像記録を行う証明写真作成モードのいずれかを選択するようにしたから、撮像装置で撮像した画像を記録媒体に記録できるのはもちろんとして、移動先や移動中でも必要となる画像を撮像し、その場で各種の証明写真等の予め指定された条件を満たす画像を簡単に作成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明を実施した携帯型のプリンタの電氣的構成を示すブロック図である。

【図2】

本発明を用いた携帯型のプリンタの正面側外観図である。

【図3】

図1に示すプリンタの背面側外観図である。

【図4】

プリンタの要部断面図である。

【図5】

液晶ディスプレイユニットの分解斜視図である。

【図6】

プリンタの動作を示すフローチャートである。

【図7】

プリント処理時の処理を示すフローチャートである。

【図8】

証明写真を作成する際の処理を示すフローチャートである。

【図9】

図 8 のフローチャートの続きである。

【図 10】

処理対象となる人物を含む画像の一例を示す説明図である。

【図 11】

1 コマ表示モード時の観察用スクリーンの表示を示す説明図である。

【図 12】

1 コマ表示モードにおける調節時の観察用スクリーンの表示を示す説明図である。

【図 13】

全コマ表示モード時の観察用スクリーンの表示を示す説明図である。

【図 14】

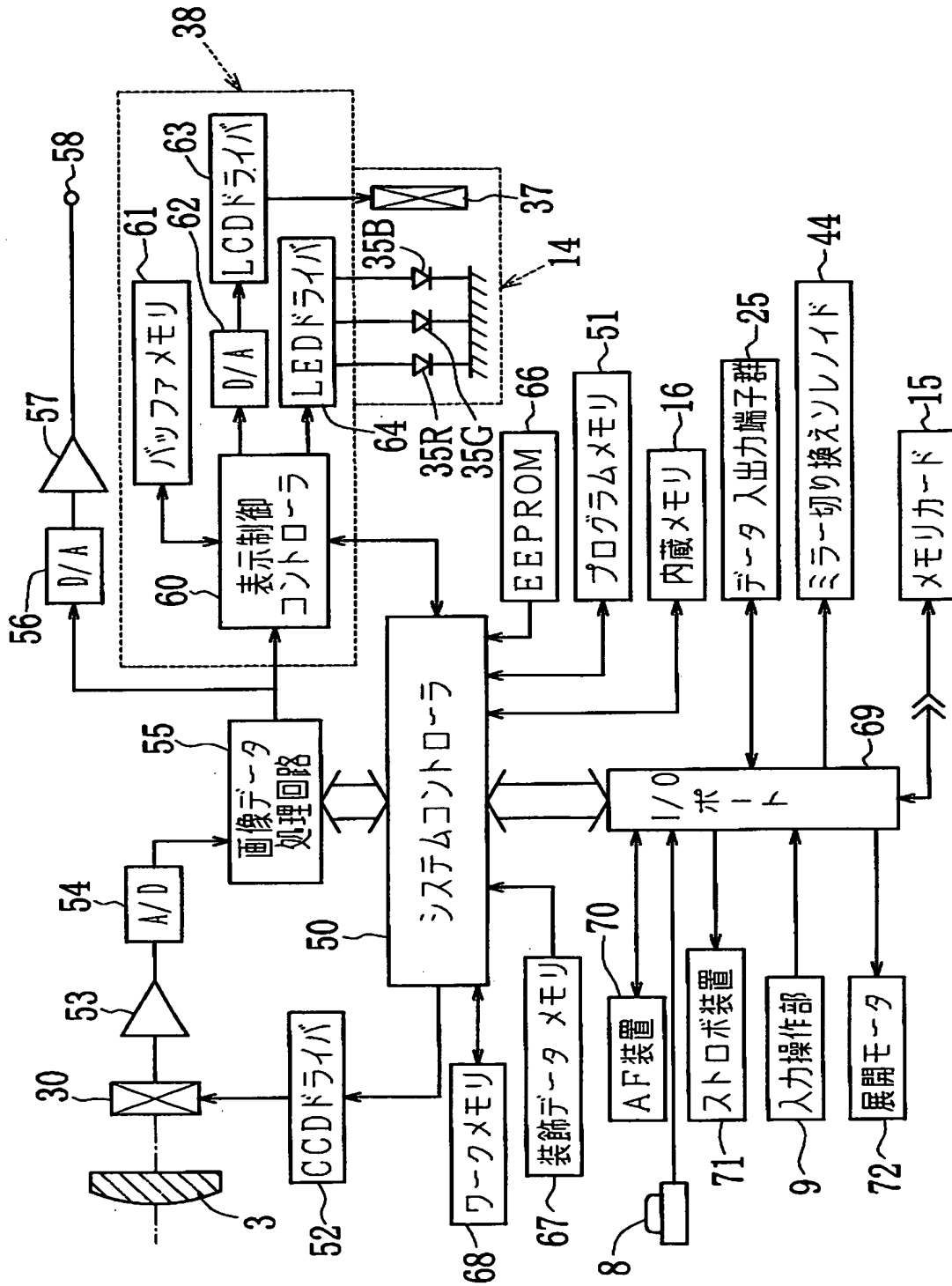
旅券用の証明写真の写真規格を示す説明図である。

【符号の説明】

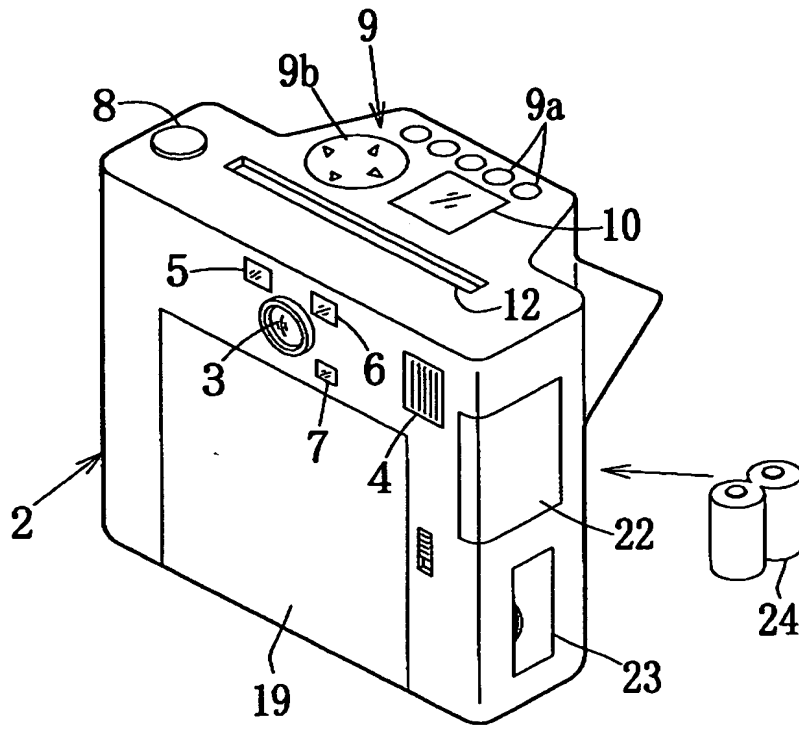
- 3 撮像レンズ
- 8 レリーズボタン
- 9 操作入力部
- 11 インスタントフィルム
- 13 観察用スクリーン
- 14 液晶ディスプレイユニット
- 16 内蔵メモリ
- 24 電池パック
- 30 CCDイメージサンサ
- 38 表示駆動回路
- 50 システムコントローラ
- 68 ワークメモリ

【書類名】 図面

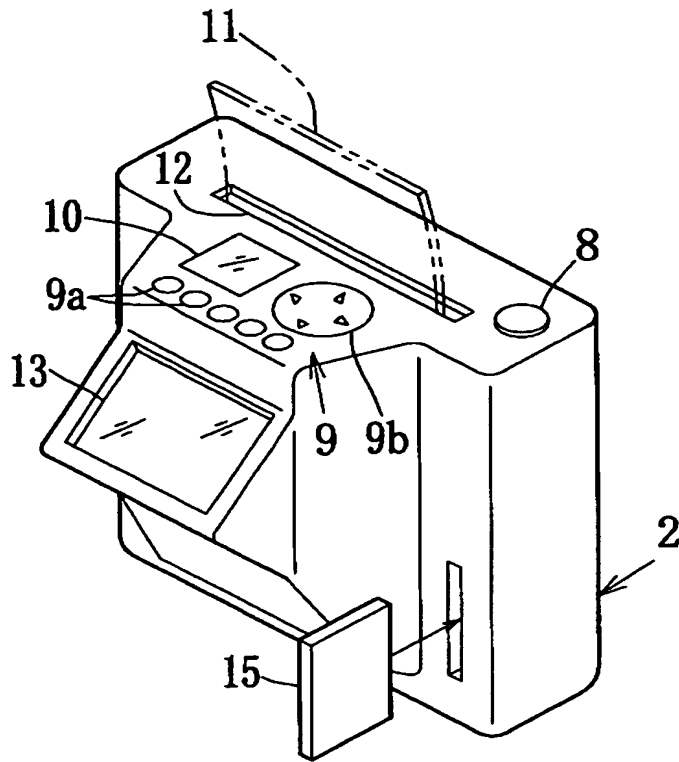
【図1】



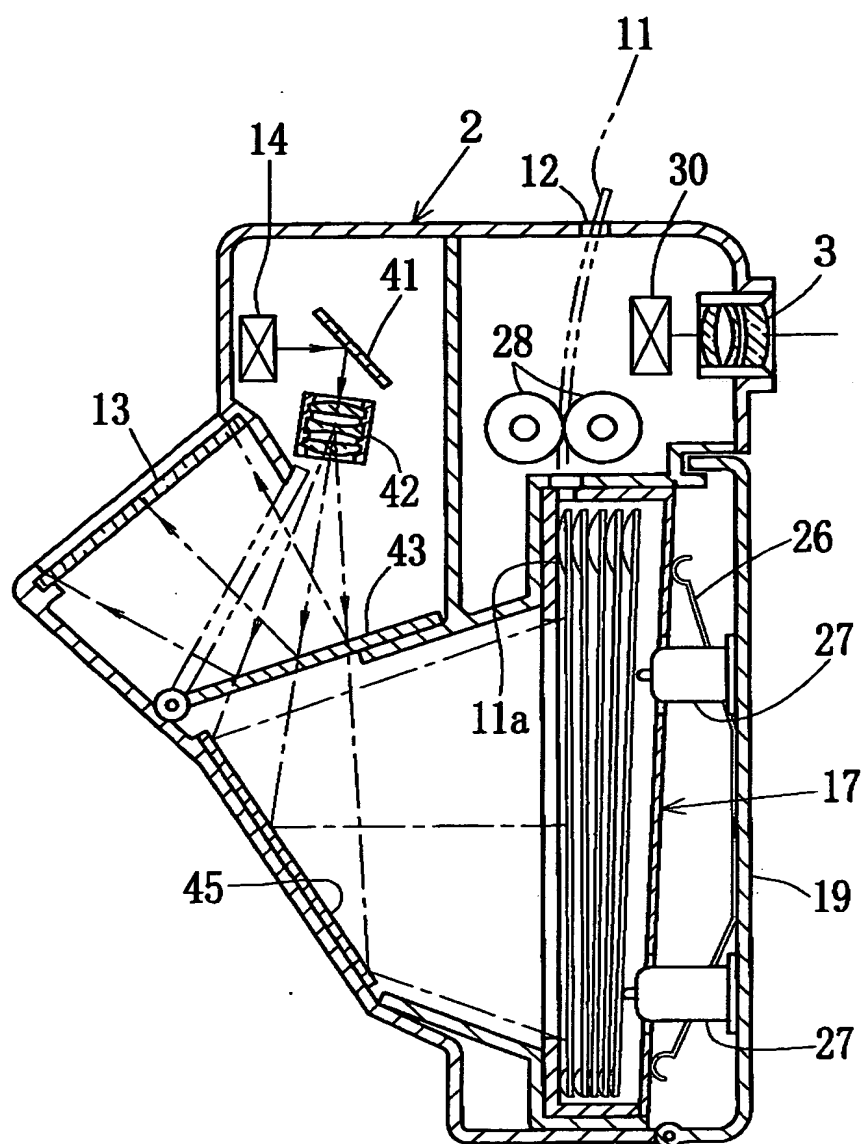
【図2】



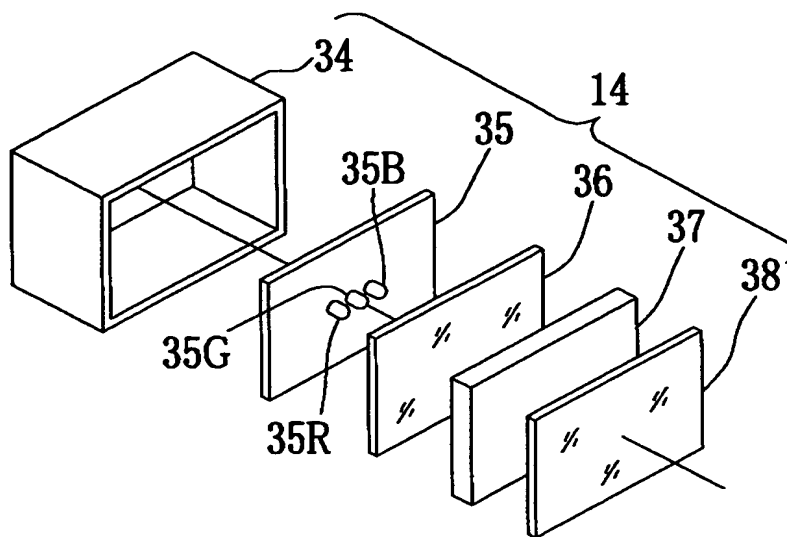
【図3】



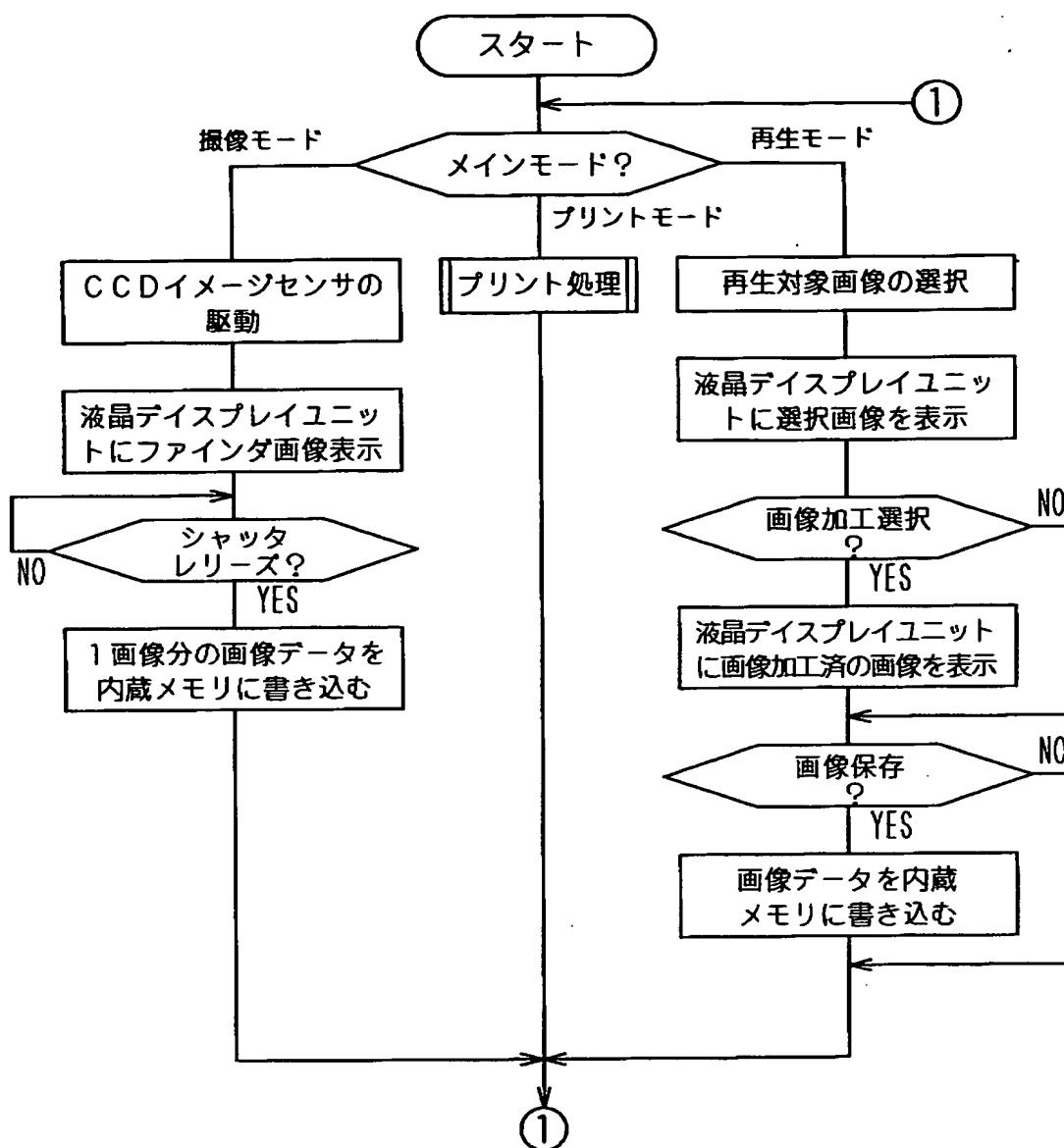
【図4】



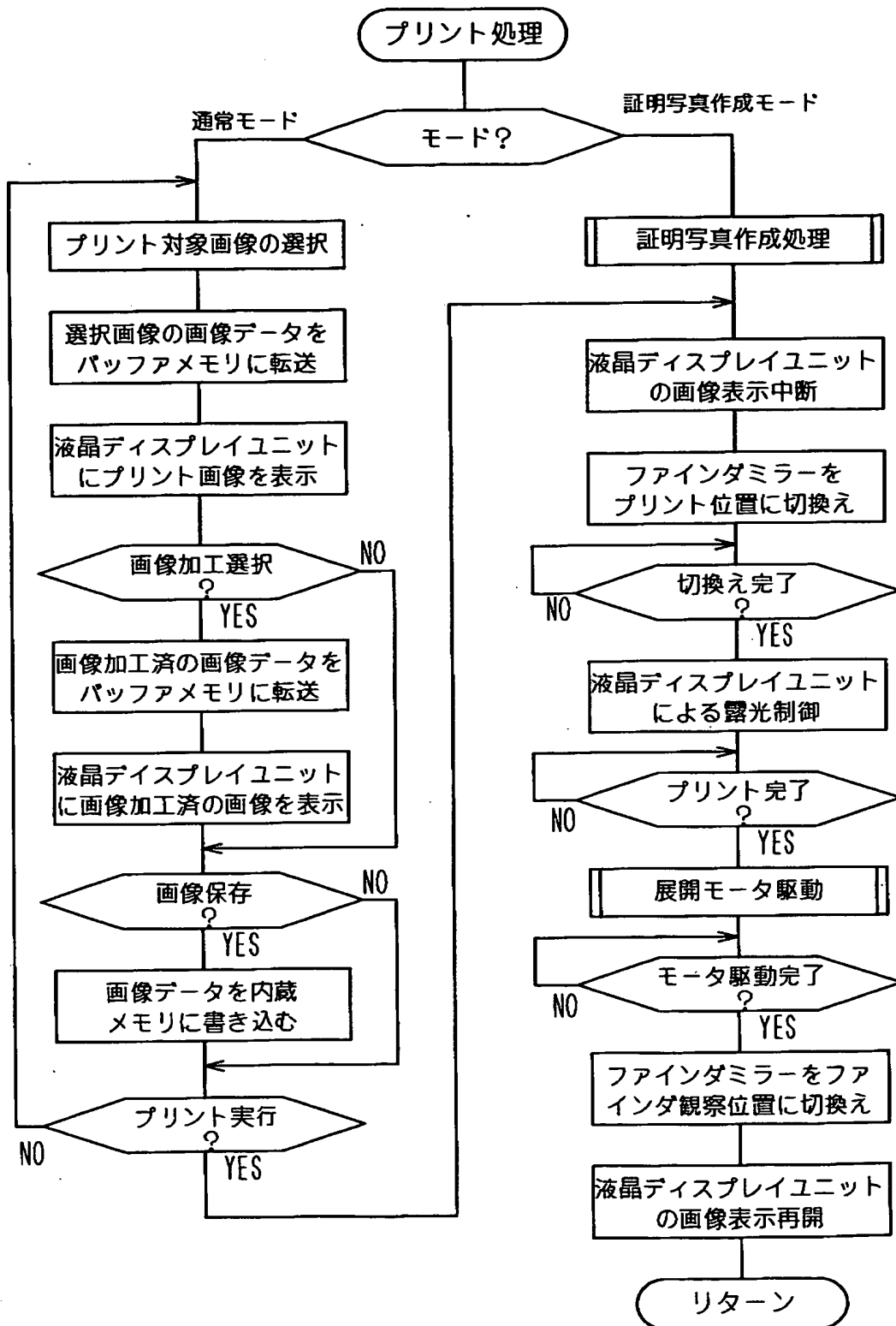
【図5】



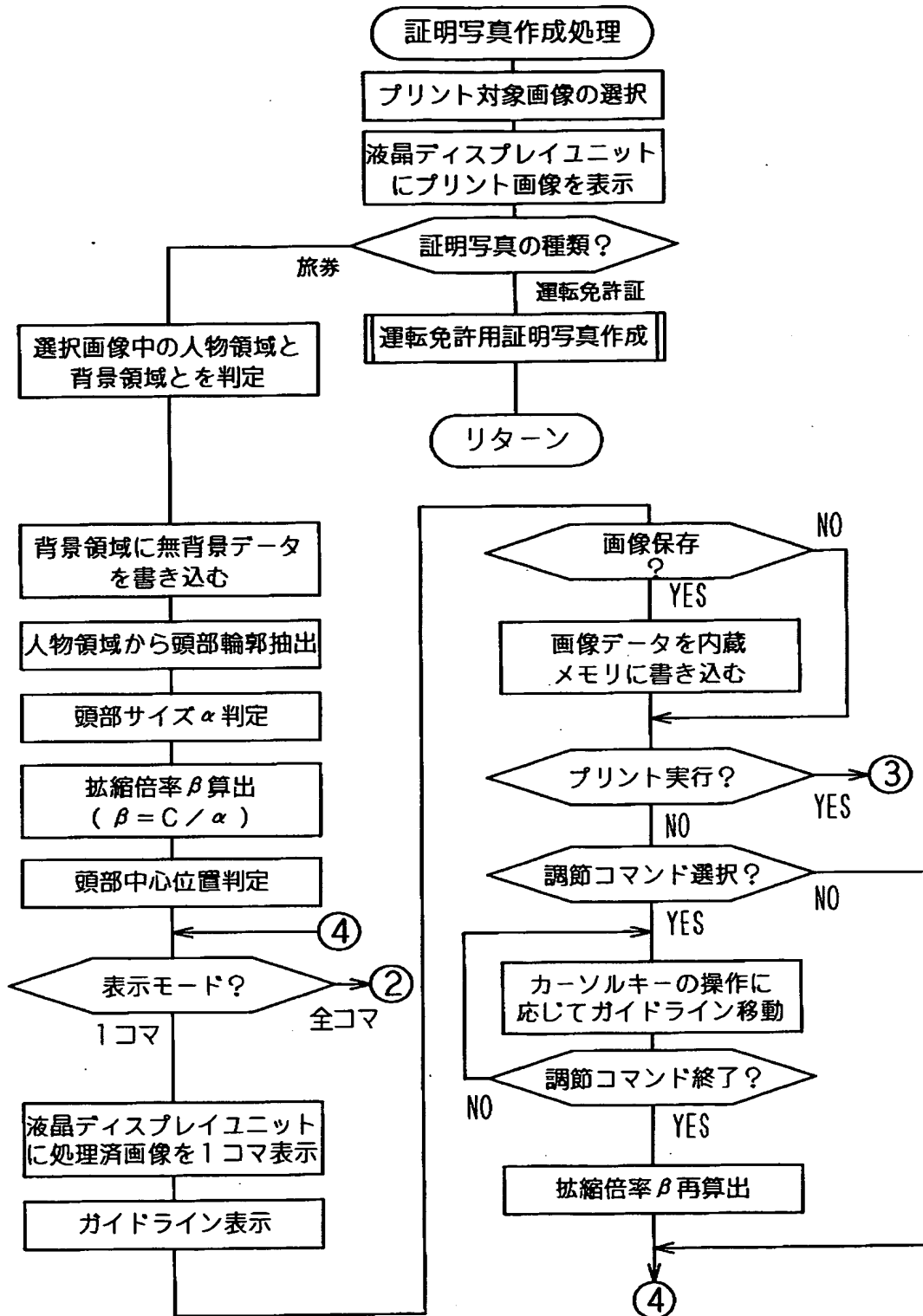
【図 6】



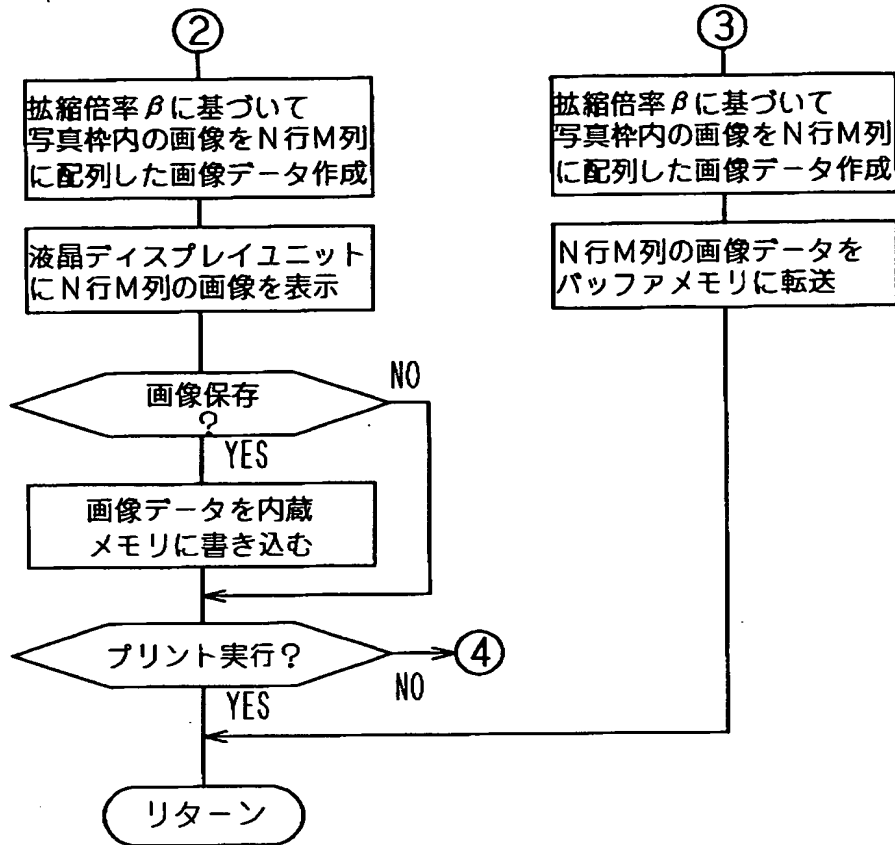
【図 7】



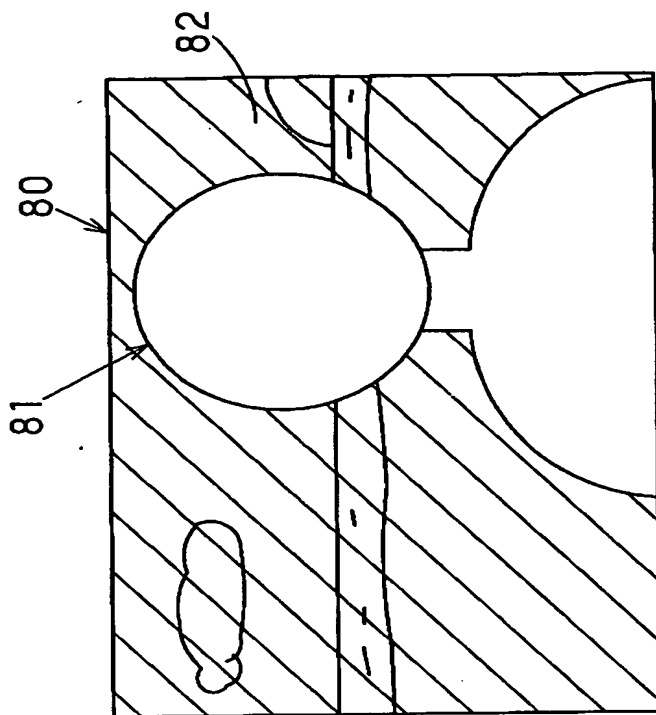
【図 8】



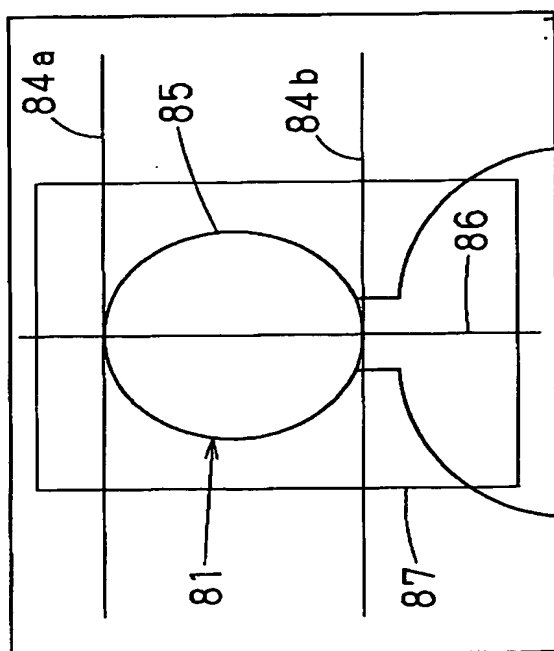
【図 9】



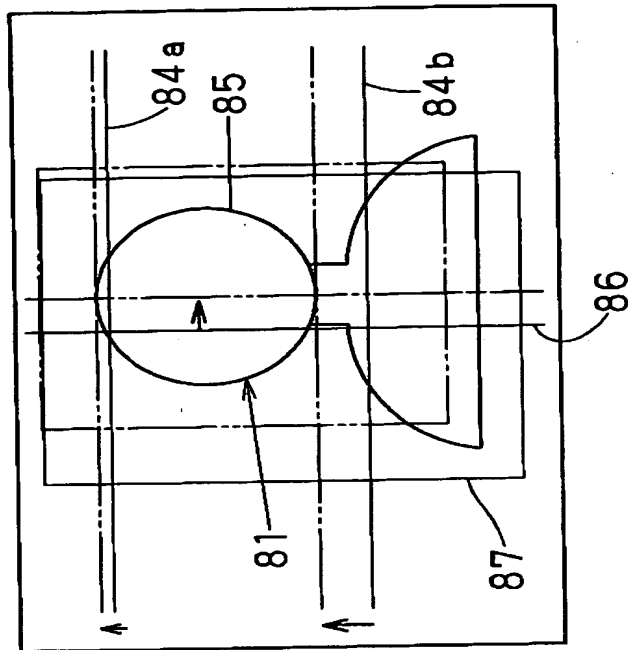
【図 10】



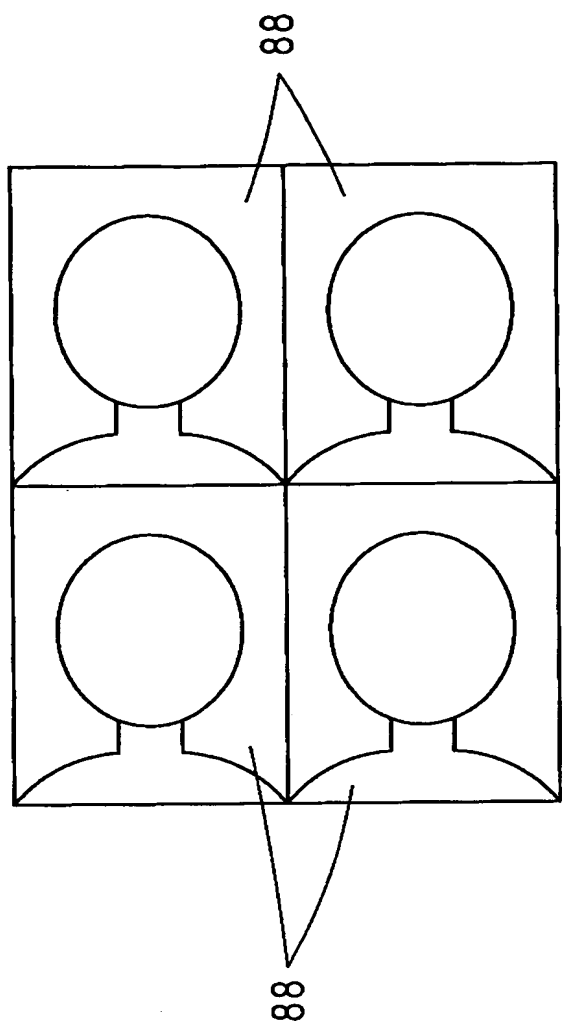
【図 11】



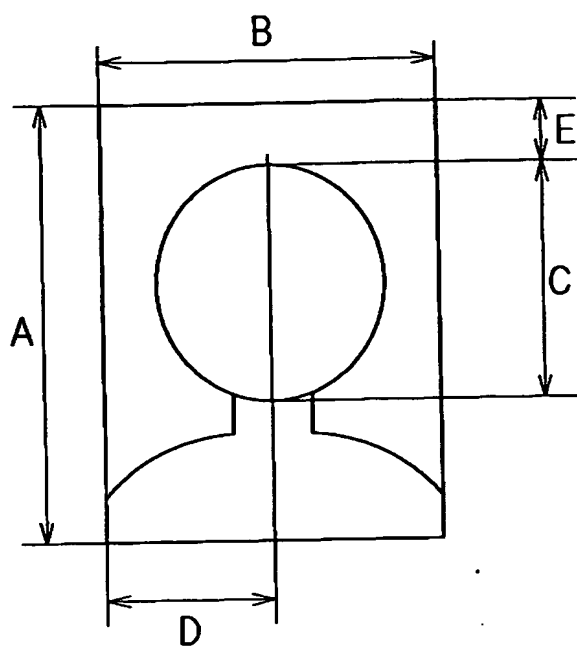
【図 12】



【図 13】



【図 14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 規格に合った証明写真を作成する。

【解決手段】 操作入力部 9 で画像を選択した後に、証明写真の種類を選択する。選択された画像は、システムコントローラ 50 によって人物領域が判定され、背景が無背景とされる。また、画像中の人物領域の形状、サイズに基づいて、画像のトリミング及び拡大縮小を行い、画像中の人物が選択されている証明写真の種類の写真規格に合致したサイズ、配置でインスタントフィルムに露光されるように画像加工する。画像加工された画像は、液晶ディスプレイユニット 14 に表示され、観察用スクリーンで観察することができる。また、プリント実行を指示すると、トリミング及び拡大縮小を行った画像がインスタントフィルム 11 のサイズに応じた個数でマトリクスに配列されて液晶ディスプレイユニット 14 に表示される。この画像がインスタントフィルムに露光される。

【選択図】 図 1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【住所又は居所】 神奈川県南足柄市中沼 210 番地

【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100075281

【住所又は居所】 東京都豊島区北大塚 2-25-1 太陽生命大塚ビル 3 階 小林国際特許事務所

【氏名又は名称】 小林 和憲

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005201]

1. 変更年月日	1990年 8月14日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県南足柄市中沼210番地
氏 名	富士写真フイルム株式会社